

今月の特集は
停電時の備え「簡易ランタン」の作り方です。

平成28年7月10日
せんげん支隊 情報・広報班

6月12日（日）、梅雨とは思えないような薫風かおる五月晴れの下で、支隊、今年度第1回目のスタンドパイプ放水訓練が行われました。以下にその模様を報告します。

6月10日（金）に国の地震調査委員会が「全国地震動予測地図」（2016年版）発表しました。それによると関東南部は依然として高い予測になっています。備えが大切ですね。

1 2016年度第1回スタンドパイプ放水訓練の報告

6月12日（日）、支隊第1回目のスタンドパイプ放水訓練が行われました。梅雨時とは思えない爽やかな天気の下、30人の訓練参加者と4名の消防署員（他に5名の外来見学者）が一堂に会し、2時間に亘る訓練に取り組みました。男性2チーム（消火隊）の訓練は昨年からの積み重ねもあり、とてもスムーズに行われました。

今年編成を目指す女性チームには9名の参加者がありました。初めてという方もいて戸惑うこともありましたが皆さん積極的に、石崎代表支隊長の適切な指導により順調に訓練が行われました。今後訓練を重ねていけば高いレベルの女性消火隊が編成されると思います。7月10日（日）の第2回目の訓練が楽しみです。女性の皆さんの活躍に期待します。

なお、今回の訓練の指導は、終始支隊本部の指導で行われたことも特筆に値すると思います。途中、ホースに穴が開くというハプニングもありましたが適切な対処もできました。最後に消防署（南出張所）の加藤隊長からも好評の中でお褒めの言葉もいただきました。参加の皆さん、本当にお疲れさまでした。

2 改めて地震に対し十分な備えを

6月10日、政府の地震調査委員会が「全国地震動予測地図」（2016年版）を公表しました。前回（2014年）に比べ、関東南部は高い発生予測（30年以内に70%以上）となっています。

熊本地震の際、報道によれば建物等の倒壊も惨状は勿論ですが、避難所の状況も大変であったようです。町田市では非常時でもできるだけ自宅での避難生活（在宅避難）を奨励しています。避難施設での生活は様々な点で精神的にも身体的にも大きな負担がかかることが予想されるからです。

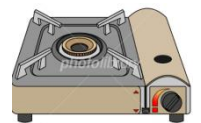
在宅避難を可能にするには、自宅の安全、食料・飲料水・生活水・非常用トイレの備蓄などが絶対に必要です。

ちなみに1丁目にお住いのKさん宅（夫婦2人世帯）の備蓄状況を次のようです。①建物は平成7年（1995年）築、震度6弱には耐えると評価されています。感震ブレーカー設置済み、消火器2台あり、②食料：アルファ米・缶詰・レトルト食品など約2週間分あり。③飲料水：水・お茶合わせて8箱（2Lペットボトル48本）④生活用水2Lペットボトル30本（60L）⑤ガスカセットコンロ1台、IHコンロ1台、ガスボンベ12本⑥非常用トイレ60回分セット⑦ラジオ・ランタン、主な防災備蓄品は以上です。勿論十分ではありませんが参考にしてください。

3 簡易ランタンの作り方

停電時には夜間ケガなどを防ぐためにも何らかの明かりが必要です。「東京防災」（206ページ）にも、簡易ランタンの作り方の説明があります。感震ブレーカーを設置したら何らかの明かりが必要です。別紙を参考にして簡易ランタンを作ってみることをお勧めします。

いざという時、きっと役に立ちます。



簡易ランタン⇒

